

卒業論文要旨

ブロモ基転位を伴ったアシル化による多置換ナフタレン合成

1250235 堤 勇登

Synthesis of Polysubstituted Naphthalenes by Acylation Accompanying Bromo-Rearrangement

Yuto Tsutsumi

当研究室では 1-ブロモナフタレンにトリフルオロメタンスルホン酸を作用させた際、1,2-転位が進行して 2-ブロモナフタレンを与えることを明らかにしている。本反応は 1 位がプロトン化した後に環状のブロモニウムイオンを経由して進行している。そこで私はプロトンの代わりにアシリウムイオンを用いても同様に 1,2-転位が進行するのではないかと考え、本反応が進行すればナフタレンの多官能化を達成することができ、合成化学的に有用である。

塩化アルミニウムの共存下、1-ブロモナフタレンに無水酢酸を作用させたところブロモ基の 1,2-転位が起きることを明らかにした。この生成物が得られたことは各種スペクトルデータに加え ^1H - ^{13}C 2D NMR (HMBC) を測定することによって同定した。

